

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した  
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業  
＜令和元年度 事業計画＞

# 里山保全体験を通じた 障がい者雇用促進を 目指すプログラム事業

里山ウェルネス研究会

2019.05

# ①取組で目指す地域像

2022年度末  
地域の状態

- 本事業の林業・福祉の連携から、地域木材と雇用、経済が三位一体となった新しい地域循環モデルとしての基盤となる。
- 取材や他地域からの視察が増え、地域の活性化に繋がる。
- 取り上げられた記事や映像を通して、飯山市に移り住む人が増える。
- 地域や世代を超えた交流が生まれ、多くの人々により新しい創造により、新しい事業計画が組み立てられる。
- 里山ウェルネス研究会及び協議会が中心となり、SDGs、林福連携のモデル地域としての研修の場として活動が広がることにより、ツーリズムの面でも需要が増え、定住、企業研修等の場としての活動が増加する。

2019年度末  
地域の状態

- 木材加工の工程に障がい者が参加する手法が確立するなど、林業と障がい者における林福連携事業が明確になり、市や県などの行政の協働取組の一環として、事業の普及を図る。  
また、ログファイヤーの認知度も向上し、ふるさと納税の返礼品の採用、パラリンピックへの寄贈や各レクリエーション団体、施設、旅行会社と連携し、ログファイヤーを活用した環境教育、レジャーなどのプログラムを展開する。
- 「小境・鷹落山里山整備利用推進協議会」との連携をはじめ、地域等で行われている他の環境、福祉活動と連携した啓発活動、協力関係を形成する。

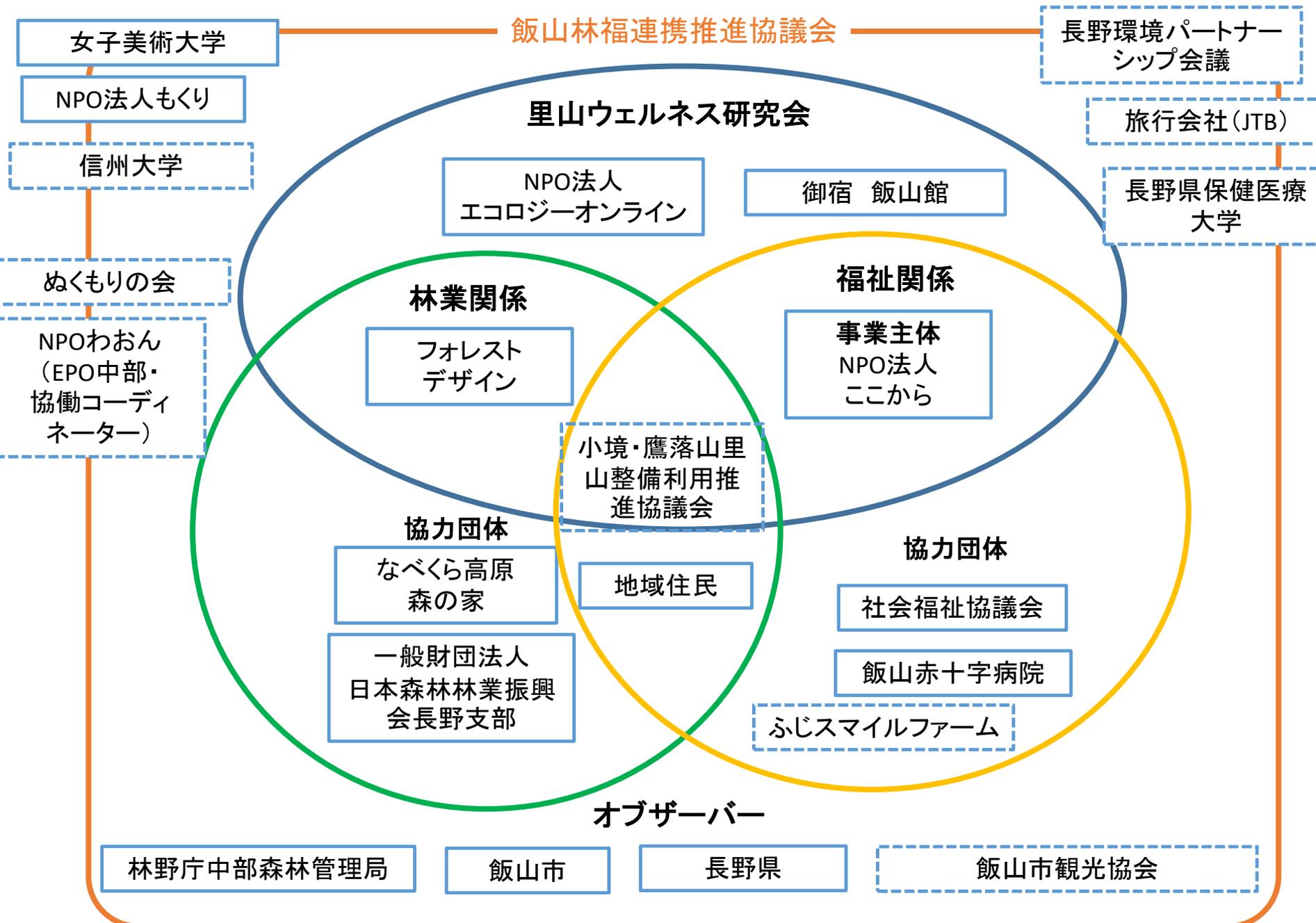
目指す未来  
からの逆算

2018年度末  
地域の状態

- 本事業の協議会として「飯山林福連携推進協議会」を設立して協議を重ね、今までつながりがなかった行政との関わりや連携もしっかりとれ、事業実施及び林福連携の基盤が整い、事業のスタートを開始することができた。飯山市の政策の中でも林福連携事業を推進する項目が追加された。
- 本事業の協議会とは別に、拠点地域に「小境・鷹落山里山整備利用推進協議会」（長野県ふるさとの森林づくり条例・里山整備利用地域の活動推進主体に2018年12月に認定）も設置され、県による森林づくりのための林道整備や、推進協議会メンバー（本事業協議会メンバーでもある）による認知症予防への里山活用の取組など新たな展開も生まれている。

目指す未来  
からの逆算

## ② 運営体制の整理 (ステークホルダーとの関係性)



### ③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】            &lt;環境課題&gt;            ・間伐された木材利用が進まない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐材を活用した地域の新しい木材加工品の普及に取り組み、地域や関係者が里山の価値を再認識し、里山の維持管理に対する地域の意識を向上させる。</li> <li>・木材加工品の生産を進めることにより、里山における資源循環としての間伐材利用を促進する。</li> <li>・地域の未利用間伐材の年間の使用見込み量が数値化する。</li> </ul>
<p>【取組課題②】            &lt;福祉課題&gt;            ・障がい者雇用支援の不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の新しい木材加工品の製作における役割分担（必要人数）や稼働スケジュールを明確にする。</li> <li>・地域（市・県）の林業と福祉が連携した林福連携事業のモデル事業の構築に取り組む。</li> <li>・障がい者だけではなく、他の福祉事業と連携も模索する。</li> </ul>
<p>【取組課題③】            &lt;経済課題&gt;            ・冬期の林家及び林業従事者等の収入減少</p>	<p>&lt;地域の新しい木材加工品の生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や市内をはじめとする林業家の方がログファイヤーを製作できる展開を図る。</li> <li>・多くの場所で普及拠点ができ、3年後には林業従事者や関係者の人たちの収入の見込みが立てられるようにする。</li> </ul> <p>&lt;生産した木材加の活用方法の確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ログファイヤーがパラリンピック等の大きなイベント及び旅行会社等での活用・採用が決まる。</li> <li>・キャンプ場、ボーイスカウト、お寺等で毎年の使用が3件確定させる。</li> </ul>

#### ④課題解決に向けたスケジュール（令和元年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定		協議会の開催		協議会の開催					協議会の開催	協議会の開催	最終報告会	
		飯山市・長野県内外のステークホルダー連携構築の充実							報告書の作成			
【取組課題①】 ・間伐された木材利用が進まない		普及企画会議		普及企画会議	体験イベントの開催	お寺への奉納				他地域での展開の製品選定・協働の模索		
		キャンプ場・お寺等でのモニター・アンケート調査の実施										
【取組課題②】 ・障がい者雇用支援の不足		実証事業		実証事業			勉強会の開催	実証事業		飯山市内で報告会・セミナーの開催		
		機器・設備の整備			イベント等に出展、参加を活動の普及・PR							
【取組課題③】 ・冬期の林家及び林業従事者等の収入減少			製作講座の開催		燃焼試験の試験等			勉強会の開催				

## ⑤ 2カ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度の到達目標の変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業では、「里山と障がい者雇用の促進」というテーマの中で林業と福祉の連携において、林福連携としてきたが、異なる様々な分野のステークホルダーを巻き込んだ「協議会」で事業を進めていく上で、障がい者に加えて「里山と高齢者福祉」も事業の中でつなぐこととした。また、キャンプ場や宿泊施設と連携したツアー（観光）において、ログファイヤーの活用を図る追加の目標設定を行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組のアイデアの変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーアイテムであるログファイヤーを地域経済の資源としていくため、林業家や市民に対するログファイヤーの製作講座の開催、協議会の中で地域資源として活用していくための方策等を検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組のアイデアの変更</li> </ul>	<p>キーアイテムであるログファイヤーを多くの人に普及する上で、ログファイヤー使用に関するモニター事業の実施。これにより生まれたフィードバックを反映し、多くの人が製作でき、さらによりよいログファイヤーが完成でき普及することが期待できる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組のアイデアの変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の共同体性や巻き込み状況に関して、当初はツーリズム（観光）関係との連携は記載をしていなかったが、ツーリズム関係と連携した方が面白いという意見も多々頂き、企業研修等をひとつの候補としたツーリズムとの連携を追加した。</li> </ul>

## ⑥ その他補足事項

### ■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・協働主体をはじめ、複数の県をまたぎ、各ステークホルダーがそれぞれの仕事や他の活動等を抱えていることから、効率的・効果的な会議の運営必要である。そのため、役割分担を明確にし、適宜、事業主任者と各担当者のミーティング（電話ミーティング含む）等を図っていく。
- ・ログファイヤーを普及することで障がい者の作業促進や地域の未利用木材の利用促進につなげるという事業ではあるが、1つの製品の普及（販売促進）にならないよう多くの方を巻き込みつつ、目標達成に向け努力していく。
- ・いろんな方々からアドバイスを頂くが、各アドバイザー及び審査の先生によりご意見に相違があり、困惑してしまうことが多々ある。都度、中部地方環境事務所、EPO中部と相談の上、事業を進めていく。

### ■ その他、留意事項などがあればお書きください

・